
平成 25 年 2月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援係の取組～



岐阜県農政部農業経営課

平成25年2月の普及活動状況ダイジェスト版

活力ある新産地づくり

中濃農林 ■ 円空さといも 新規栽培者栽培説明会

2月6日に中濃里芋生産組合は、平成25年度からの新規栽培者者を対象に栽培説明会を開催した。当日は、円空さといもの主産地である関市だけでなく、JAめぐみの管内から13名が出席した。

農業普及課からは、ほ場の準備から植付けまでの当面必要な作業について説明した。また、JAめぐみのからは、中濃里芋生産組合の加入条件について説明が行われた。

農業普及課では、今後も新規栽培者を対象とした研修会を定期的に開催し、新規栽培者が安定生産を行い、定着できるよう支援を行う。



【栽培説明会で説明】

郡上農林 ■ 夏秋いちご 産地戦略会議で販売戦略等を検討

2月12日に農業普及課は、「夏秋いちご産地戦略会議」を開催した。生産者代表の他、JA、市、県（農業経営課、郡上農林事務所）関係機関から計16名出席し、情報交換を行った。

夏秋いちごは、産地育成計画に沿って順調に生産量が増加しているが、単価の低迷等の影響で生産額が伸び悩んでいる状況にある。会議では、農業普及課から、これまでの進捗状況を説明し、小玉果が単価を下げる要因となっており、小玉果を減らす栽培方法の確立や小玉果の有効活用など課題提起した。

その後、生果販売用出荷、小玉果の加工など、有利販売、新たな販路開拓、規格外品活用等について検討した。

来年度は、ひるがの高原いちご組合設立10年目の年に当たるため、関係者一同気持ちを新たに、1億円産地を目指して意識統一が図られた。



【産地の発展に向けて検討】

売れる農畜産物づくり

西濃農林 ■ 小麦 全国麦作共励会で全農会長賞受賞！

養老町の(有)クリーンファーム日吉が、平成24年度全国麦作共励会の「集団の部」において全国農業協同組合連合会長賞を受賞し、2月20日に東京都内で表彰式が行われた。

当法人は、農業普及課の支援のもと、小麦の安定収量の確保と高品質化のため、5m間隔に明渠を設置し、定期的に点検・補修を行うなど、排水対策を最重要技術として位置づけ、取り組んでいる。また、土壌診断に基づく土づくり、高性能大型機械の導入による低コスト・省力化に取り組んでおり、地域の小麦栽培の模範として期待されている。

農業普及課では、今後もJAにしみのと連携し、小麦をはじめとする土地利用型作物の経営安定について支援することとしている。

可茂農林 ■ 普及成果発表 可茂農業をみんなで考える会を開催

2月21日に可茂農林事務所では、可茂総合庁舎大会議室で生産者、JA、市、県など約160名の参加を得て、「可茂農業をみんなで考える会」を開催した。

農業普及課では、同会を普及活動の成果発表会に位置づけ、「産地戦略会議で改善！夏秋トマト産地の活性化」と題して「美濃白川夏秋トマト産地戦略会議（構成：JAめぐみの、白川町、東白川村、美濃白川夏秋トマト部会、農林事務所）」の平成21年



【表彰を受ける代表ら】



【農業普及課の発表】

からの4年間の取組について発表した。発表では、トマト産地の課題を「生産」「担い手育成」「販売」の3点に整理し、新品種の栽培体系の確立、地域の栽培者掘り起こし説明会や消費者交流バスツアーの開催など、普及活動を行った結果、平成20年度に比べて販売額が大きく上がった成果を報告した。

続いて、JAめぐみの可児農業サポートセンターが、地元農産物のPRを目的に、地元の洋菓子店と協働した「野菜スイーツ」商品化について、JA営農指導員から事例発表が行われた。最後に、岐阜県6次産業化実践アドバイザーの藤中広氏から「6次産業化の取り組みのヒント」として講演が行われた。

本会の開催は、可茂地域の取組状況が参加者に伝わり、可茂農業の今後の新たな発展方向等について考える機会となった。

恵那農林 ■ 普及成果発表 農業普及課活動発表会と中津川支所研究成果検討会を合同開催

2月19日に農業普及課では、恵那総合庁舎で普及活動発表会を開催し、恵那地域内外の農業者・行政関係者・JA職員など170人が出席した。昨年に引き続き、今回も中山間農業研究所中津川支所の成果発表会と合同で開催した。

農業普及課からは、ブロッコリー産地の育成、恵那花き研究会の情報発信、夏秋トマトの後半出荷量の増加の3事例の普及活動を発表した。このうち、ブロッコリー産地の育成では、定植株数を増やして、単収を向上させる必要性など、経営試算に基づく栽培方法について発表した。

一方、中津川支所からは、夏秋果菜類の独立袋栽培など、4事例の発表が行われた。

出席者からはこれまでの活動に対する感謝や今後一層の支援を望む声が聞かれ、両機関に対する強い期待が感じられた。

当日は、普及活動と試験研究に関するパネル展示や、地元産の「きねふりもち」や「恵那たまご」の試食も行い出席者から好評を得た。

飛騨農林 ■ ほうれんそう・トマト 高山蔬菜出荷組合創立50周年記念大会開催

2月7日に高山蔬菜出荷組合が創立50周年記念大会を開催し、大勢の生産者・来賓が出席して盛大に行われた。

会場には、50年を振り返って過去に使用した出荷段ボール等の展示や、未来に夢をつなぐため作成された若い農業者へのインタビューDVDの上映などが行われた。

農業普及課では、飛騨農業改良普及所の時代から当組合と二人三脚で雨よけハウス導入などいくつもの課題を解決してきており、普及関係者の感慨もひとしおであった。

最後に、高山トマト部会長より大会宣言が読み上げられ、ガンバロー三唱で締めくくられた。



【活動発表をする普及指導員】



【記念大会の様子】

戦略的な流通・販売

東濃農林 ■ 農業普及事業推進協議会 普及活動成果発表会を開催

2月26日に農業普及課は、土岐地区農業普及事業推進協議会と共催で普及活動成果発表会を開催し、当初予定を上回る94名の参加者があった。

地域農業の基本課題である「地産地消を基本とした多様な流通・販売と農業の収益力向上」のもと、農業普及課からは「新たな農産物直売所を拠点とした地域活性化」と題して、組織づくり、出荷者の育成・確保など、きなあつ瑞浪に関わった平成21年度からの4年間の活動経過を報告した。

また、本年度新規就農した土岐氏、発会から一年を経過した工房みちくさからの活動発



【普及活動発表を行う普及指導員】

表、6月オープン予定の多治見駅北農産物直売所計画の中間報告が行われた。

最後に、愛媛県の「内子フレッシュパークからり直売所出荷者運営協議会」の野田文子名誉会長を招いての講演も行った。嫁ぎ先農家での家族経営協定に至った経過、直売所活動を通じて、地域の活性化と生きがいをもって農業に従事する楽しさを熱弁され、参加者からも質問が相次ぐ盛況な発表会となった。今後もこうした機会を単なる発表の場ではなく、積極的な仕掛けを行う場として最大限活用していきたい。

多様な担い手の育成・確保

岐阜農林 ■男女共同参画 家族経営協定調印式を開催

岐阜市で2月21日に酪農、2月25日に水稻の農家の家族経営協定が締結された。

立会人には、岐阜農林事務所、岐阜市農林部、岐阜市農業委員会の関係者が出席した。

農業普及課では、農業者が、家族内の役割分担や休日の明確化などにより意欲とやりがいを持って魅力的な経営が展開されるよう、家族経営協定の締結を推進している。

締結後は、内容の実践や見直しなどフォローアップしながら、魅力的な経営に向けて指導を行う。

下呂農林 ■男女共同参画 家族経営協定調印式を開催

下呂市蛇之尾の若い畜産農家夫妻は、パートナーシップを発揮した農業経営の実現を目指して、市や下呂農林事務所の支援を受けながら家族経営協定書を完成させた。

2月18日には、下呂市役所下呂庁舎で下呂農林事務所農業普及課長、下呂市農業委員長および地区委員、下呂市農務課長が立ち会う中、調印式を行った。

調印式では、協定締結者と立会人が協定書に署名、捺印を行った後、締結者からは今後の抱負が語られ、農業普及課長から激励した。



【調印後の写真撮影】



【協定書への調印】

魅力ある農村づくり

揖斐農林 ■いび農業活性化研修会 揖斐地域の農業の在り方を考える

2月21日に農業普及課は、「いび農業活性化研修会」を開催し、揖斐地域の農業者及び国・県等の関係機関など160名が参加した。本研修会は、産地づくり・地域づくりの取組みについて情報共有し、今後の生産振興や地域活性化に資することを目的として開催した。

最初に、農業普及課から「鳥獣害対策の取組み」として鳥獣被害を受けにくい農作物の生産振興や地域ぐるみの取組の啓発活動を発表した。続いて揖斐郡猟友会から「猟友会の活動と有害鳥獣駆除の実際について」として狩猟活動の実際や山に入る時の留意点などの報告をした。また、猪鹿無猿柵の展示も行い、問題となっている鳥獣害対策について重点的な啓発を行った。

また、愛知県の法人経営体「扶桑農産」代表取締役から「都市の近くで大規模農業～担い手育成と農業経営の安定～」と題した講演が行われ、規模拡大及び複合経営による農業経営の安定と、後継者育成に関する考え方を聞いた。

出席者は、各報告者の発表に耳を傾け、今後の揖斐農業の活性化に向けて決意を新たにしようであった。



【扶桑農産代表取締役の講演】